

# 私の教育者像



岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所長  
**勝木 元也 氏**

## 教育随想



平成13年11月1日  
**11月号**

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所 所長 勝木 元也氏	
この人に聞く	2
柴田 敬喜氏	
羅針盤	2
常磐南小学校長 加藤 一彦	
ふれあい	3
城南小 土岐 恵 ミュンヘン日本人国際学校 安藤 眞樹	
特集	4
安くてよいもの見つけた 農遊館・ふれあいドーム	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
業間体育(昭和47年)	
この本を	8

「世のためにつくした人の一生ほど、美しいものはない」で始まる司馬遼太郎氏の「洪庵のたいまつ」は、小学五年生のために書かれた名作です。緒方洪庵の、名を求めず、利を求めず、世のためにつくす人生の実践を多くの若者たちが学び、そして明治日本の礎が築かれたことをやさしく、しかも深く語っています。

私は、教育というとき、そのような先人の姿のことを思い浮かべます。

私たち人間は、くり返し生まれ育っているのですから、先人は必ず存在し、その中の何を美しいと思いい、そうなりたいと思うかによって、人生の生き方も決まってくるような気がするのです。

育って行く過程には、母親の愛情によって人を信頼することを覚え、言葉を覚え、見るものすべてを記憶

し、言葉にする喜びを経て、自らの生きる力を自覚するようになるのでしよう。

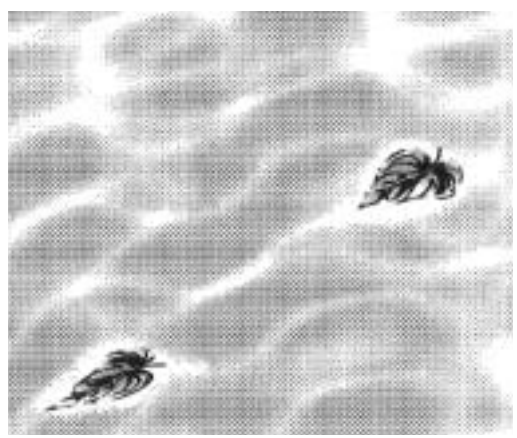
新しい学習指導要領では、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断し、解決する能力を養うことを目標の一つにあげています。

私はこの能力もまた成長していくものと考えています。

そして、その成長には、人の成長過程に適した教育が必要だろうと思うのです。

たくさん本を読むこと、漢字を書きとること、単純な計算をくり返すことが、いかにも退屈かのように、しかも創造性とは無関係なように語られることが多いのですが、それはおそらく違います。

小学生の時期は、それは大変楽しいことで冒険ですらあるのではないのでしょうか。



自ら見出す力は、小学生の時期に備わっているすべてを受け入れる素直な力を、鍛錬によって伸ばすことから生まれるのです。そのときにこそ、先人としての教師像が問われていると思います。

(かつき もとや)



ごみステーションから  
町を見つめて

柴田 敬喜 氏

まだ暑さの残る夕方、時折激しく雨が降る中、市制記念日に篤行者表彰を受けられた柴田さん宅を訪ねた。柴田さんは通商産業省の認定資格を持ち、伝統工芸品「名古屋仏壇」彫刻部門伝統工芸士として自宅で彫刻の仕事をしている。この道五十年の彫刻家である。

ごみステーションの清掃活動を始めた動機をお聞きした。

「私が以前、副総代をするまでは、ごみに関してとても無関心でした。ところがある日、衛生委員さんの都

合が悪く、その代わりに当番をしようとごみステーションへ行ったときのことです。回収車の作業員の、ここは岡崎市で一番汚いですねという話に、とてもショックを受けました。そこで何とかしようと清掃活動を始めたのです。」

柴田さん宅の近くにあるごみステーションは、前日からごみを出されるのは当たり前、ごみ回収車が作業を終え、行ってしまうから清掃しているのかかわらず、無神経にごみを出していく人もいたということである。

毎日のようにごみステーションへ清掃、消毒の作業をしに通い始めたころは、柴田さんの活動も理解されず、一向にきれいにならなかった。決まりも守れない非常識さに腹立たしさを感じていたそうである。しかし、時が経つにつれ、それぞれ事情



があるのかと思うようになったと笑顔で話してくださった。

「それでも十年間、この活動を続けてきて、ごみステーションの様子が変わってきました。非常識な出し方をする人が全くなかったわけではありませんが、以前に比べると決まりを守る人が増えてきました。私たちが取り組んできたことを理解してくれたのでしょうか。」

そんな中、一番汚いと言われた、同じごみ回収車の人の「見違えるほどきれいになりましたね」の一言が今も耳に残っていると語られた。

最近の子供を見てどう感じているか尋ねてみた。

「無神経にごみを出す家の子供はやはりはじめがつけられないような気がします。今の親御さんはしっかりした人と、非常識な人との差が大きく、それがそのまま子供に反映されているようです。」

と話された。

帰り道、柴田さんが掃除をしてみえるそのステーションに寄った。きれいに掃き清められていた。

氏名 しばた たかよし  
生年月日 昭和十一年十月十日  
住所 上地町荒井十七番地八

羅針盤

ボランティア活動

常磐南小学校長

加藤 一彦

本校の雅楽・太鼓クラブが、ある病院の慰問に訪れた時のことです。病院の玄関ロビーには、おひな様の段飾りが設けてありました。その前で、大勢の車椅子の患者さんたちが見守る中、子供たちはやや緊張しながらも見事な演奏を披露しました。

初めに雅楽の、胸に染み入るような調べにうつとりと聞きほれていたお年寄りたちが、太鼓の「花火」の演奏が始まると、音に合わせて体を揺すりながらリズムをとり始めたのです。「病人がそんなことをしているのかな」と心配になるほどでしたが、本当に心から楽しんでいました。

演奏が終わった時、割れんばかりの拍手を受け、子供たちも本当にうれしそうでした。喜んでもらえたという満足感にあふれた表情でした。

## まっすぐに生きる

城南小 土岐 恵

「わしゃ、もう目が見えんから何もできんよ。」

「それは違うよ。目が見えなくてもできることはたくさんあるよ。だから精一杯、長生きしてね。」

日本語教室に通うA子は、お年寄り訪問で、おばあさんと会話しながらうつつら涙を浮かべた。表情豊かで、感じたことをしっかり言葉で表現できるブラジル人のA子。「物おじせず、ラテン系の人独特の明るさをもった女の子」というのがA子の第一印象だった。

中南米の人は、家族を大事にする。夜遅くまで仕事をする母を見て「将来は私が家を建ててお母さんを幸せにしてあげるの」と、明るく言ったことがある。

人が悲しめば自分も涙を流し、困っている友達には優しい言葉をか



ける。私が日本語級内でのけんかの仲裁をしていると、「同じ仲間なのになんで」と涙を流しながら、A子もその中に体を張って止めに入ってきた。

こんなにまっすぐに、自分の気持ちを表現できるA子との出会いは、私にとって新鮮だった。

大人になっても家族を愛し、正直に生きる人であってほしい。そして、日本とブラジルの大きな掛け橋になってくれることを願っている。



## ドイツの自然の中で学ぶ

ミュンヘン日本人国際学校

安藤 眞樹

「今回の宿泊学習は三泊すべて自炊、それも飯ごうを使ってご飯を炊くぞ。それだけではない。ポートで五時間川を下るぞ。」

中学部一年生の生徒たちは、先生何考えてるんだという表情だった。計画を進め、いざ宿泊場所へ。ドイツの北部ハノーバーのはずれの小さな村のコテージ。すべてのコテ



ジを借り切って宿泊学習はスタートした。自分たちでドイツ語を使っての買出しから始まり、かまの準備、まき割りなど、初めての経験ばかりだった。毎日の炊飯活動も順調に進み、カヌーでの川下りも無事終了した。

最後の夕食。メニューはカレーとバーベキュー。「先生、みんな食べるとおいしいね」「お焦げくれよ」とは、生徒の自然な言葉だった。

帰りの電車の中、生徒の一人が、「来年の宿泊は、ホテルだよ」と聞いてきた。私はすぐに「来年こそテントだ」と返した。やられたという生徒の表情が印象的だった。

最後に、子供たちと患者さんたちみんなで「春よ来い」と「春が来た」の合唱をしました。その時、大勢の患者さんたちの目に、涙があふれているのが見えました。悲しそうな表情ではなく、涙を流しながら微笑んでいるのです。子供たちの心からの慰めの気持ち伝わったのでしよう。別れる時に、お礼の言葉に混じって、「また来てね」という呼びかけが聞こえてきました。そして、なごり惜しそうちにいつまでもいつまでも手を振っていました。

ボランティア活動とは何かとか、奉仕の心がなぜ必要なのかを子供たちに説明するのは難しいことです。教師が、具体的な資料をもとに熱弁を振るうことも効果がないわけではありません。しかし、それよりも子供たちが実際に体験してみても、目の前で、お年寄りたちが涙を流して喜んでくれる姿に接することの方がどれだけ意義深いことでしょうか。

自己中心的な考え方が、子供だけではなく大人たちにも多く見られる現代社会です。純真な心を失っていない子供のと看から、ボランティアについての正しい認識を持たせることが教師の務めであると思います。

# 安くてよいもの見つけた



## おかざき農遊館・ふれあいドーム岡崎

おかざき農遊館（東阿知和町）やふれあいドーム岡崎（下青野町）には、生産者の自慢の作物、安全安心な産物を求めて、市内・市外を問わず多くの人が訪れる。また、生活科や総合的な学習の中で、この施設を利用する子供たちもいる。

この二つの施設は、生産者と消費者のふれあい、交流する場を提供することと、農業の活性化を図ることを目的として、平成八年と十二年に建設された。

生産者は、原則として岡崎市内の人で友の会に登録している。友の会会員の方は、毎朝七時ごろには自分で値をつけた荷をおろし、陳列までを行う。お尋ねしたところ、自分で値をつけられるからこそ、いいものを作らないと消費者に申し訳ないし、生産者と消費者が直接結ばれているので、作物を育てる仕事を楽しんでできると、うれしそうに話してください。

農遊館は「生産者の顔が見える商品」をモットーにしている。商品の一つ一つには生産者の名前を書いたシールがはられ、商品の上には生産者の顔写真が並べられている。生産者は、自信のある作物を陳列し、消費者は生産者の顔を見て納得して購入する。近くの常磐小学校の二年生が、生活科の時間に農遊館を訪れた。「お母さんと一緒に買い物にくるよ」「休みの日には家族みんなで来ることもある



▲ 朝早くから自分の作物を出荷する生産者



▲ 商品にはられた生産者の顔写真



▲店の人の話を聞く子供たち



▲生産者の様子を調べる子供たち



▲土、日は特ににぎわう館内



### 農遊館



### ふれあいドーム



よ」。ここは、消費者にとって、安心して訪れることができる場になっている。農遊館に四年おかれて平成十二年に開館したふれあいドームでは、名前のとおり、「生産者と消費者のふれあい」を大切にしている。そのために月に一・二回はイベントを計画している。ハーブの料理や漬物教室、ほかし染めの教室などがある。生産者が直接行うスイカの試食会などもある。商工祭りの会場となるなど、地元の商工会とも連携を図っている。消費者にとっても、子供たちにとっても、安くてよいものが見つけれられる、うれしい場である。



▲商品を一一つ陳列する生産者

# お知らせ

## ● 教育最新情報

### ○子育てネットワーク

本年度より、文部科学省が「子育て学習の全国展開」に取り組んでいる。その内容は、就学時健診や母子保健活動等を活用した子育て講座や思春期の子供を持つ親の緊急子育て講座を開設し、多くの親に家庭教育について考える機会を提供することだ。

岡崎市でも、子育て支援センター（八帖保育園内）が、子育てに悩む母親を対象に、育児講演会を開催したり、康生町のシビコ内にファミリーサポートセンターを開設したりする等、家庭教育の支援を進めている。

また、愛知県では、「伝えようあなたの思い子どもら

に」をキャッチフレーズに「いきいきあいちっ子キャンペーン」を展開している。

十一月には、県、市町村が、警察、関係機関・団体や、県内の全小中高等学校、特殊学校と密接な連携を保ちながら、青少年健全育成の機運を盛り上げるキャンペーンを展開することになっている。

本市においては、小学校に設置されていたOC連絡協議会を、本年度、中学校にまで広げるとともに、子供だけでなく、保護者や地域住民の声を集約するように設置要項を改訂し、開かれた学校づくりを推進する。さらに、学区の関係諸団体と連携して、学区児童・生徒健全育成協議会を発足させ、体制作りを進める学校が増えている。



### ○健全育成総決起大会

#### ——城北学区——

#### 「いい笑顔

ふやしていこうこの町に」これは、四月二十八日に開催した、城北学区児童・生徒健全育成協議会総決起大会の

ときに募集した標語で、三年加藤彩乃さんの作品である。本協議会の活動が始まって半年余、「いい笑顔」の子供たちを育てたいと、保護者や地域の方々・教職員による「愛のパトロール」も二十回にも

及び、地域住民の協力体制の確かさを実感している。

#### ——甲山学区——

学区の方々と学校、保護者が互いに連携を取り、子供たちの健やかな成長を見守ろうという趣旨で、十月二十日（土）、甲山学区児童・生徒健全育成総決起大会が開かれた。大会の中で、生徒代表による「甲山中学生のできる」と題した発表が行われ、地域に関わり、地域を創る総合的な学習の時間「ハートフル甲山」（地域創生総合学習）への取り組みが報告された。

また、応募された標語の中から最優秀作品が披露された。

#### ——葵中学校区——

十月二十七日、葵中学校区でも青少年健全育成連絡協議会として設立された。

この学区は、井田・愛宕・広幡の三学区の補導委員さんを母体として、総代会・関係諸団体・学校が連携をとって推進する。

葵中学校は、生徒指導推進協議会を長年積極的に推進して来ているので、学区の方々と更なる絆が期待できそうである。

## ● 少年自然の家だより

### ○特殊学級芋掘り交流会

収穫の秋、自然の家のふれあい農園（創作棟西）で、市内小中学校の特殊学級児童生徒が恒例の芋掘り体験を楽しんだ。十月二～五日の四日間で二十七校、一四〇名の子供たちが参加した。この芋は、所の臨時作業員星野さんが丹精こめて栽培したものだ。子供たちは、土の中から出てくる芋に歓声をあげていた。

作業のあとは、参加した他校の子供との交流で楽しい一時を過ごしていた。この行事は五年前から実施しており、今後も続ける予定である。



● 教育研究所だより

○ 教育年鑑の活用を

各校に平成十二年度版の教育年鑑とCDを配付した。  
各学校や現職教育委員会における教育活動のまとめをはじめ、優秀論文等の教育研究、さらに、研修活動や行事、コンクール、大会結果等、幅広くまとめられている。

各校の研究推進や論文執筆の参考に、活用してほしい。  
○ 市教育論文募集、締め切り迫る  
締切 十一月二十六日(月)  
提出先 教育研究所

論文担当 水野  
提出 応募一覧を添付  
留意事項

- ・ A4版四百字詰原稿用紙
- ・ 応募部門別ラベルを表紙につけること
- ・ 共同研究には、グループ名、代表者職・氏名、及び全員の名・氏名を明記すること
- ・ 資料の扱い、その他詳細等については、募集要項を参照のこと
- ・ 総合的な学習の教科領域名は、「総合」と明記すること

● 表彰

◆ 平成十三年度学校関係緑化コンクール  
● 学校環境緑化コンクール  
入選(愛知県緑化推進委員会 会長賞)

● 学校林等活動コンクール  
入選(愛知県緑化推進委員会 会長賞)

◆ 第六十八回NHK全国学校音楽コンクール(東海北陸)  
● 小学校の部  
銅賞 矢作南小学校  
◆ 第五十四回中部合唱コンクール  
金賞 六ツ美北中学校

◆ 第四回愛知県小学校バンドフェスティバル  
優秀賞 竜美丘小学校  
◆ 第三十二回博報賞  
● 伝統文化教育部門  
(文部科学大臣奨励賞)

◆ 平成十三年度防火作品(市長賞のみ)  
● ポスターの部  
岩津小 五年 村松 賢  
生平小 六年 鶴田 奈巳  
矢作北中 二年 平嶋 麻貴

● 習字の部  
大門小 五年 稲田 実央  
交美北 六年 柴田 真実  
六ツ美中 二年 加藤 倫子



▲ 全校草とり集会 (岡崎小学校)

第34回岡崎市中学校新人体育大会・水泳競技の部

＝水泳競技＝

★新記録

性	種目	氏名	校名	記録
男	50m自	竹田 英知	矢作北	28"8
	100m自	川口 泰宏	岩津	1'03"6
	200m自	井土 清貴	附属	2'14"1
	100m平	澤田 将宏	矢作	1'13"9
	100mバタフライ	村上 善則	竜南	★1'05"4
	100m背泳	萩原 達矢	城北	1'10"1
	200m個人メドレー	坂野 文哉	竜海	2'32"2
	400mリレー	伊藤・荒井・天野・坂野	竜海	4'15"0
	400mメドレーリレー	天野・柵木・荒井・坂野	竜海	4'50"7
男子総合	1位 竜海	2位 矢作北	3位 城北	
女	50m自	水上 さと子	附属	29"9
	100m自	中村 綾	矢作北	1'05"8
	200m自	上松 真理子	竜海	2'33"4
	100m平泳	高田 知佳	竜海	1'21"6
	100mバタフライ	井上 顕子	北	1'13"8
	100m背泳	鶴田 奈里	竜海	1'18"4
	200m個人メドレー	近藤 美咲	甲山	2'43"5
	400mリレー	高田・渡辺・鶴田・齊藤	竜海	4'30"6
	400mメドレーリレー	鶴田・高田・藤墳・齊藤	竜海	5'05"3
女子総合	1位 竜海	2位 矢作北	3位 城北	

◆ 岡崎市ごみ減量運動推進事業  
絵画作品(市長賞のみ)  
小豆坂小 四年 八田 康裕

◆ 岡崎市明るい選挙啓発ポスター(特選のみ)  
竜美丘小 六年 見並 克俊  
広幡小 六年 草次 杏美  
岩津小 六年 福井 修平  
六ツ美北中 一年 岩津 成美  
六ツ美中 一年 中田恵理香  
交美北中 一年 小早川妙子  
葵 中 三年 小早川妙子

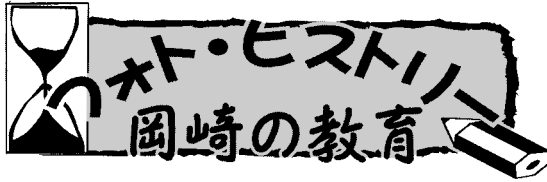
◆ 愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会(優勝のみ)  
八百M 岩津中 丸尾 祐矢

◆ 第三十七回西三河総合バレーボール選手権大会  
百MH 矢作中 岩脇真奈美

● 小学校  
男子優勝 上地小学校  
女子優勝 竜美丘小学校  
● 中学校  
男子二位 竜南中学校  
女子優勝 矢作北中学校  
二位 東海中学校

・カ  
ツ  
ト

矢作東小 川村 たくみ



### 業間体育 (昭和47年)

昭和四十七年十一月、「マツト運動と業間体育」のテーマで、体育の研究発表会が行われた。その際、中心的な活動になったのが業間体育「走れ六ツ南子」である。授業の間の長放課や始業前の時間を使い、全校児童がランニング姿や裸足になって、夏も冬も休まず走り通し、基礎体力の増進を図った。

昭和四十六年、指導要領の改訂で「総則体育」（学校教育活動全体の中の体力づくり）が新設され、これを受けて子供たちの体力づくりが重視されたときである。



写真提供 六ッ美南部小学校

## この本を

\*親がかわれば、子どももかわる

長田百合子 ¥1500

講談社

\*救命センター当直日誌

浜辺 祐一

集英社

¥1575

\*考える力、やり抜く力 私の方法

中村 修二

三笠書房

¥1400

\*秘すれば花

渡辺 淳一

サンマーク出版

¥1400

\*ぼくらはみんな生きている 坪倉 優介 幻冬舎 ¥1400

自分のことや家族のことだけでなく、物の名前はもとより、寝ること、食べること、お金のこと、そして、トイレに行くことすら忘れてしまった18歳のときの著者。大学からの帰宅途中スクーターに乗っていてトラックと激突。一命は取り留めたが、全ての認識を失ってしまったのだ。

「ここはどこ？ぼくはだれ？」から始まり、新しい自分と向き合いながら、この春、草木染職人として一人だちした。悪戦苦闘の12年間の軌跡は、読み手を休ませない。

おかげさつ子展も三十八回を数えた。この数年、図工・美術の授業時間の減少、学校五日制を見越した学校行事の精選等、学校の現場では、大きな変革を余儀なくされている。しかし、自分の作品を見つけた時の子供たちの笑顔は、今年も変わらない。

消費者と生産者を取り持つ施設。農遊館やふれあいドームは、

たくさんの方が、うれしくなる場所だ。自慢の作物を自分の考えた値段でおろす人も、安くて新鮮でおいしいものを買う人も。そして、その間を取り持つ人も。そこに心の交流があるからだろう。

## シオ スア

足や手を泥だらけにして芋を掘る。真夏の太陽の日射しを受けて、晩秋の今、収穫を迎える。ゆっくりゆっくり時間をかけて生長し続けてきた。天の恵みと地の恵み。両者が欠けては、この結果にたどり着けないのは周知のとおりである。

スーパープレアの数々で観客を魅了するイチロー選手。自らの夢を自らの力で現実のものとした。

今、夢を持たない子供が多くなっているという。夢は、心を豊かにする。夢に向かって頑張る、そんな子が増えてくることを期待したいものだ。